

(Coleoptera: Hydrophilidae). Koleopterologische Rundschau, 61: 111-135.

Schödl, S., 1992. Revision der Gattung *Berosus* Leach, 2. Teil: Die orientalischen Arten der Untergattung *Enopulurus* (Coleoptera: Hydrophilidae). Koleopterologische Rundschau, 62: 137-164.

Schödl, S., 1993. Revision der Gattung *Berosus* Leach, 3 Teil: Die

paläarktischen und orientalischen Arten der Untergattung *Berosus* s.str. (Coleoptera: Hydrophilidae). Koleopterologische Rundschau, 63: 189-233.

(2012年5月9日受領, 2012年5月24日受理)

### 【短報】東京都世田谷区で採集されたハラグロオオテントウ

ハラグロオオテントウ *Callicaria superba* (Mulsant) は、日本で最も大型のテントウムシの一種で、本州、四国、九州、台湾、中国、チベット、ヒマラヤ、インドに分布する(黒澤ほか, 1985)。本種は東京都本土部からは未記録であり(伊東ほか, 2012)、本州での分布域は南西部に限られているようで、筆者は東日本の各県における本種の採集記録を知らないが、最近、小泉享詳氏から東京都世田谷区で採集された本種の標本を恵与いただいたので記録しておきたい。

lex., 東京都世田谷区中町5丁目29, 2. VIII. 2012 (午前6時ころ), 小泉享詳(こいずみ・たかよし) 採集, 芳賀馨保管(図1)。

採集地点は採集者が居住するマンションの屋上で、周辺環境は緑の多い住宅地である。天候は雲一つない快晴で、南寄りの風がやや強く、5時40分ころには既に強い陽射しが照り付け、6時の気温は26.6℃、湿度は65%となっていた。上記の個体は、屋上の一隅から死体で拾得されたもので、採集時に体は既に乾燥していた。後翅が露出していること、脛節と付節に自動車排気ガスの煤(?)とクモの糸(?)が混合したような黒い汚物が付着していたことから、羽化してから死亡するまでかなりの距離を移動した可能性がある。

近年、従来西日本にしか生息していなかった蝶類等が東日本に分布を拡大しているが、本種も同

様の事例に当たるのかもしれない。また本種の成虫が観察されるのは春季であるとされ(日本環境動物昆虫学会編, 2009)、8月に採集されたことも珍しいと思う。

末筆ながら、貴重な標本を恵与され採集時の状況を詳細に教示された小泉享詳氏(東京都)に厚くお礼申しあげる。

### 引用文献

伊東憲正・亀沢 洋・紺野 剛・浜路久徳・雛倉正人・松原豊, 2012. “テントウムシ科”. 東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト(オンライン). <<http://homepage3.nifty.com/TKM/index.html>> (2012年8月11日参照)

黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 1985. 原色日本甲虫図鑑 III. 500pp., 保育社, 大阪.

日本環境動物昆虫学会編, 2009. テントウムシの調べ方. 148pp., 文教出版, 大阪.

(芳賀 馨 330-0841 さいたま市大宮区東町  
1-16-1-804)



図1. 東京都世田谷区産ハラグロオオテントウ。